

つるせ西だより



～今月の特集～
地域の文化を支える人たち

第157号(11月号)2020. 11. 1

編集:鶴瀬西交流センターだより編集委員会

発行:富士見市立 鶴瀬西交流センター

〒354-0021 富士見市大字鶴馬3575-1 TEL:049-251-2791 FAX:049-255-9707

地域の百景 27

鶴瀬駅を駆け抜けるアートトレイン

各鉄道網の利便性が図られる中、東武東上線にも東京メトロ副都心線や東京メトロ有楽町線、東急東横線が乗り入れ、遠くは元町中華街まで直通で運んでくれる昨今です。

さまざまな車体の電車が停車、通過する中にひときわ目を引くラッピング電車を見つけました。

この電車は、「川越アートトレイン」として、池袋、小川間を地域振興を図る目的で、日に3、4往復運行されているようです。

1両目から10両目まで、それぞれ、中福の神楽、あい鯛みくじ、喜多院、川越まつり、花火と風鈴、川越氷川神社、菓子屋横丁、時の鐘と川越城本丸御殿、大正浪漫夢通りの鯉のぼり、新河岸川と桜並木が描かれており、川越の四季、魅力ある風景が10両編成の電車であらわされています。

お時間が許されれば、駅近くでご覧ください、短時間で川越観光が楽しめるかも・・・



時の鐘



川越城本丸御殿

(撮影・文/堀口編集委員)

まちかどウォッチング

捨てられたマスク

今年の春から新型コロナウイルス感染が日本国内でも広がりはじめ、マスクが品不足となりました。知人は、家族6人分のマスクを買った娘さんと2人でお店の開店2時間前に並んで買ったのが枚数制限で4枚だけ。毎日使うにはとても足らず友達に手作りマスクを作ってもらったなど、マスクには大変な思いをしたそうです。

それが最近では、多くのお店でマスクが売られるようになり、みんな安心したのか、大変な思いを忘れたのか、いくら使い捨てでも貴重であったマスクが今は道路や公園の植木の中に、時にはゴミ集積場所のカラスよけネットの上に無造作に捨てられています。素手で捨つわけにもいかず、わざわざゴミ手袋を使って小さなビニール袋に入れて捨てるようにしています。

何のためにマスクを着けていたのか、着けていたことでウイルスの感染から自分を守り、他人を守るためのマスクではなかったのか、たった1枚の使い捨てマスクでもウイルスの感染拡大を抑制してくれる盾であったと感謝する気持ちを持つて無造作に捨てるのではなく、人に迷惑を掛けないように捨ててほしいと思います。(川村)



職員異動のお知らせ

10月1日付で橋本采奈主事が異動し、佐々木香主任が配属になりました。よろしくお願ひします。